

「ごんぎつね」定期テスト対策練習問題①

年	組	番	名前
---	---	---	----

【1】 「ごんぎつね」の中の次の部分を読んで問題に答えましょう。

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの中山という所に、小さなお城があって、中山様というおとの様がおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。畑へ入っていもをほり散らしたり、菜種がらのほしてあるのへ火をつけたり、百姓家のうら手につるしてあるとんがらし（とうがらし）をむしり取っていたり、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからっと晴れて、もずの音がキンキンひびいていました。



ごんは、村の小川のつつみまで出てきました。あたりのすすきのほには、まだ雨のしずくが光っていました。(イ)川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、(ウ)水がどっとまわっていました。ただのときは水につかることのない、川べりのすすきやはぎのかぶが、黄色くにごった水に横だおしになって、もまれています。ごんは、川下の方へと、ぬかるみ道を歩いていきました。ふと見ると、(エ)川の中に人がいて、何かやっています。(オ)ごんは、見つからないように、そうっと草の深い所へ歩きよって、そこからじっとのぞいてみました。「兵十だな。」と、ごんは思いました。兵十は、ぼろぼろの黒い着物をまくし上げて、こしのところまで水にひたりなら、魚をとるはりきりというあみをゆすぶっていました。はちまきをした顔の横っちょうに、円いはぎの葉が一まい、大きなほくろみたいにへばりついていました。

問1 「ごんぎつね」とは、どんなきつねですか。文章の中のことはをぬき出して11字で答えましょう。

問2 「ごん」はどんないたずらをしていましたか。「ごん」がしたいいたずらを、文章の中のことはを使って3つ答えましょう。



問3 「ごん」はなぜいたずらばかりしていたのですか。もっとも正しいものを次のなかから選び○でかこみましょう。

ア：人間がにくくて、いたずらをして困らせたかったから

イ：ひとりぼっちでさみしかったから

ウ：自分の力をためしたかったから

エ：村から人間をおいだしたかったから

問4 線（ア）「雨があがると」とありますが、雨があがったとき、「ごん」はどんな気持ちでしたか。ごんの気持ちがわかることばを文章の中から探して5字で答えましょう。

問5 「雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました」とありますが、雨があがると、ごんが「ほっとした」のはなぜですか。考えて答えましょう。

問6 「雨があがると」とありますが、雨があがった外の様子がわかる一文を文章の中から探して、最初の5字と最後の5字を答えましょう。

【最初の5字】

【最後の5字】



問7 線(イ)「川は、いつもは水が少ないのですが」とありますが、「いつもは」と同じ意味で使われていることばを文章の中からさがして6字で答えましょう。

問8 線(ウ)「水がどっとましていました。」とありますが、水がましている様子がわかる一文を文章の中から探して、最初の5字と最後の5字を答えましょう。

【最初の5字】

【最後の5字】

問9 線(エ)「川の中に人がいて、何かやっています。」とありますが、①「誰が」②「何を」していましたか。①は2字で文章の中から抜きだして、②は文章の中のことばを使って14字で答えましょう。

①【誰が】

②【何を】



問10 線(オ)「ごんは、見つからないように」とありますが、なぜそのようにしたのですか。もっとも正しいものを次の中から選び○でかこみましょう。

ア：兵十と会いたくなかったから

イ：兵十から魚を盗もうと思ったから

ウ：兵十に火縄銃でうたれてしまうから

エ：何かいたずらするチャンスと思ったから

問11 兵十の生活の様子がわかることばを文章の中からぬき出して9字で答えましょう。

問12 兵十が魚をとるのに夢中になっていることがわかる一文を、文章の中から探して、最初の5字と最後の5字を答えましょう。

【最初の5字】

【最後の5字】



【2】 「ごんぎつね」の中の次の部分を読んで問題に答え
ましょう。

しばらくすると、兵十は、はりきりあみのいちばん後ろのふくろのようになったところを、水の中から持ち上げました。その中には、しばの根や、草の葉や、くさった木切れなどが、ごちゃごちゃ入っていましたが、でも、ところどころ、白い物がきらきら光っています。それは、太いうなぎのはらや、大きなきすのはらでした。兵十は、びくの中へ、そのうなぎやきすを、（カ）ごみといっしょにぶちこみました。そして、また、ふくろの口をしばって、水の中へ入れました。兵十は、それから、びくを持って川から上がり、びくを土手に置きといて、何をさがしにか、川上の方へかけていきました。兵十がいなくなると、ごんは、ぴょいと草の中から飛び出して、びくのそばへかけつけました。（キ）ちょっと、いたずらがしたくなったのです。ごんは、びくの中の魚をつかみ出しては、（ク）はりきりあみのかかっている所より下手の川の中を目がけて、ぽんぽん投げこみました。どの魚も、トボンと音を立てながら、にごった水の中へもぐりこみました。いちばんしまいに、太いうなぎをつかみにかかりましたが、なにしろぬるぬるとすべりぬけるので、手ではつかめません。ごんは、じれったくなって、頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。うなぎは、キュツといて、ごんの首へまきつきました。そのとたんに兵十が、向こうから、
「うわあ、ぬすっとぎつねめ。」
とどなり立てました。



ごんは、びっくりして飛び上がりました。うなぎをふりすててにげようとしたのですが、うなぎは、ごんの首にまきついたままはなれません。ごんは、そのまま横っ飛びに飛び出して、一生けんめいににげていきました。

ほらあなの近くのはんの木の下でふり返ってみましたが、兵十は追っかけては来ませんでした。

ごんはほっとして、うなぎの頭をかみくだき、やっと外して、あなの外の草の葉の上にのせておきました。

問1 線(カ)「ごみといっしょにぶちこみました」とありますが、「ごみ」とは具体的にどんなものですか。文章の中から3つ、抜きだして答えましょう。

問2 線(キ)「ちょっと、いたずらがしたくなったのです」とありますが、「ごん」がしたいいたずらの内容として正しいものを、次の中から選び○でかこみましょう。

ア：びくの中の魚を盗んでしまうこと

イ：びくの中の魚を逃がしてしまうこと

ウ：いちばん太いうなぎを持って帰ること

エ：びくを隠してしまうこと



問3 線(ク)「はりきりあみのかかっている所より下手の川の中を目がけて」とありますが、なぜ「ごん」は下手の川の中を目がけたのですか。もっとも正しいものを次の中から選び○でかこみましょう。

ア：下手の川のほうが魚には住みやすかったから

イ：遠くまで投げることができなかったから

ウ：魚がにごった水の中にもぐれるようにするため

エ：魚がもう兵十につかまらないようにするため

問4 「じれったい」の意味として正しいものを次の中から選び○でかこみましょう。

ア：ものごとが思うように進まず、いらいらすること

イ：なんどもくりかえして、いやになること

ウ：どうしていいかわからず、めんどうくさくなること

エ：思うようにいかなくて頭にくること



「ごんぎつね」

定期テスト対策練習問題①（解答）

【1】

問1 ひとりぼっちの小ぎつね

問2

- ・畑へ入っていもをほり散らす
- ・菜種がらのほしてあるのへ火をつける
- ・百姓家のうら手につるしてあるとんがらしをむしり取る（取っていく）

※順ばんはどれが最初でも良い。

問3 イ

【解説】

「ひとりぼっちの小ぎつね」ということばから、「ごん」はひとりぼっちでさみしくて、いたずらをしていたと考えることができる。

問4 ほっとして



問5 (例) 外へ出られなかったから

【解説】

「雨がふっていると、外へ出られないから」

「雨が上がって、外へ出られるようになったから」など、雨が降っていると外にでられない、雨があがったので外に出られるようになった、ということがわかるように書いていけば良い。理由をきかれているので、「～から」という形で答えられるようにしよう。

問6 【最初の5字】空はからっ

【最後の5字】いました。

【解説】

抜き出す一文は「空はからっと晴れていて、もずの音がキンキンひびいていました。」

問7 ただのときは

問8 【最初の5文字】ただのとき

【最後の5文字】ています。

【解説】ぬき出す一文は、「ただのときは水につかることのない、川べりのすすきやはぎのかぶが、黄色くにごった水に横だおしになって、もまれています。」



問 9 【誰が】 兵十

【何を】 はりきりあみをゆすぶっていた

【解説】 「はりきりというあみ」は、もう少しあとの部分で「はりきりあみ」ということばで書かれている。

「はりきりあみ」と「ゆすぶっていました」から、

「はりきりあみをゆすぶっていた」という14字の答えが作れるかどうかポイント。

問 10 エ

【解説】 イの「魚を盗もうと思った」は、このときはまだ「ごん」は兵十がうなぎや魚をつかまえていたことまでは分からなかったので、「盗もう」とは思うことはない。

問 11 ぼろぼろの黒い着物

【解説】 「ぼろぼろの黒い着物」ということばから、兵十の生活は「まずしい暮らし」だということがわかる。



問 | 2 【最初の5文字】 はちまきを
【最後の5文字】 いました。

【解説】

抜きだす一文は、「はちまきをした顔の横っちょに、円いはぎの葉が一まい、大きなほくろみたいにへばりついていました。」顔についた葉っぱに気がつかないか、気がついていても取るよゆうがないくらい、兵十が魚とりに夢中になっているのがわかる。



【2】

- 問1
- ・ しばの根
 - ・ 草の葉
 - ・ くさった小切れ

問2 イ

問3 エ

【解説】

はりきりあみのかかっている所より上手に投げると、魚はそのまま、またあみにかかってしまう。あみにもうかからないように、はりきりあみよりも下手に投げた。

問4 ア

